

令和 6 年 10 月 20 日

長浜市議会議長 高 山 亨 様

会 派 名 無 会 派
代表者名 杉 本 英 一

政務活動報告書

旅費の支出をとまなう政務活動を下記のとおり実施しましたので、提出します。

記

1 実施年月日 令和 6 年 10 月 7 日～ 10 月 9 日

2 政務活動の種別 研修

3 参加者 杉本英一・他 恵風会6名

4 活動内容 「宮城県利府町まち・ひと・しごと創設ステーションについて」
利府町役かつこ場 （宮城県宮城郡利府町）

「災害の伝承について」

大川災害伝承館・南三陸 311 メモリアル
（宮城県石巻市・本吉郡南三陸町）

「岩手県立平泉世界遺産ガイドダンスセンター視察について」

① 「宮城県利府町まち・ひと・しごと創設ステーションについて」

仙台駅から、JRで20分の場所にある「利府町」。その駅前に「tsumiki」と呼ばれている施設があります。建物面積 131㎡で、PC・電子レンジ・コピー機・Wi-Fiが完備されています。ワークスペースとして、カフェとして、起業・創業などの相談の場として、個人、団体を問わず、誰でも利用することができます。この事業は、平成28年 地方創生加速化交付金を利用してスタートしました。内部は「利府コンシェルジュ・カフェ」を中心とした空間があり、中央にキッチン・カウンターテーブルを設置、また用途に合わせ、組み合わせ自由な机・用途に合わせ動かせる上がりベンチ、壁、ツリーなどフレキシブルな構造になっています。コンサートに来たお客さんを歓迎・記念写真が撮れたり、プロジェクターでガラス越しに投影すれば、大型のデジタルサインにも利用できます。学生・社会人役場の若手職員も自主参加の「まちづくり・施設づくりワークショップ」も月に2回から

3回のペースで開催されています。Rifu-Co-Labo(リフコラボ)の精神で、「Co=共同・協働」を大切にし気軽に誰でも参加できるワークショップを目的に建てられた施設です。
長浜えきまちテラスの「カイコー」もこのような利用方法ができないものか
考えていきたいと思いました。

② 「災害の伝承について」

未曾有の東日本大震災から14年たちました。今回で、6回になりますが、改めて、旧南三陸町防災対策庁舎を訪れ、改めて防災・減災を「私事」として考える重要性を、再認識しました。当時職員であった、三浦勝美氏から直接お話を伺いました。
当時三浦氏は、防災庁舎の中におられて、引き波にのまれ、沖に流されたのですが奇跡的に助かった方です。長浜にも2度お越しいただいて、講演をしていただきましたそのお話の中で、一番大事なことは、やはり災害直後の対応だそうです。避難所の確保と食事に尽きるとおっしゃってました。ところで当該長浜市の対策はどうなっているのか。避難場所の確保・真夏や真冬時の避難場所はどうなるのか、非常食の確保はどうなのか、など問題は山積みです。防災危機管理局は、早急に対策を練ってまいりますと
いっておられるが、一刻も早い対応策を立てていかなければと、再度、痛切に考えさせられました。

③ 「岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンターについて」

長浜市が建設予定の(仮称)小谷城戦国体験ミュージアム整備事業の参考のために、岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンターを視察しました。この施設は、地形模型や映像を使った展示、VR技術、多言語対応ガイドなどのデジタル技術を活用し、平泉の文化遺産を、効果的に発信しています。ただ世界遺産ではありますが、年間の入場者は3万人ほど。入館料は、310円という手頃な料金設定でした。職員は13名おられて、休館日は、毎月末日と年末・年始。毎年、当然赤字決算がつづいていますが、運営は岩手県なので、ある意味いいのですが、小谷城戦国体験ミュージアムはそうはいきません。長浜市が運営していくわけですから。毎年、市税が投入されていくことは、絶対にあってはなりません。いわゆる費用対効果を十分に熟慮しなければなりません。非常に難題ですが、何とか知恵を絞っていかなければと痛感しました。